

メール文書からの感情等の抽出について

200512013 遠藤 建城

現在、日本人のほとんどの人が携帯電話やパソコンを持ち、それらからメールを送受信している。その送受信されているメールには、送信者の様々な感情が含まれている。人間はメールの文章を読めば、相手の感情が多少理解できる。その「メールの文章を読み相手の感情を理解する」という作業は、コンピュータでも出来るのではないかと考えた。

本研究ではコンピュータに「メールから相手の感情を判断する」ということをさせる方法を考察する。そして、考察の内容を元にプログラムを作成する。また本研究では、一つ一つの単語の意味を調べず、語尾等の限られたところだけに注目し、喜怒哀楽を判断する。

作表ソフトの作成

200512073 星野 喬

現在私達はデータ整理にしばしば表計算ソフトを利用する。保存ファイルをタイトルなどの情報だけで内容を判断できない場合、ファイルを開き確認しなければならぬ。しかし、MS-Excel 等の表計算ソフトでは作表したソフトがなければファイルの内容を確認できないという問題点がある。

そこで、どの環境でも確認できるような仕組みとしてテキスト形式などの共通した保存方法が他にないか、またより簡単な作表方法がないかを考察・提案し、実装することを目的とする。

セルオートマトンモデルによる交通流の解析

200512095 若山 純生

日常では、渋滞が発生する。その発生にはさまざまなものがある。その中で、信号や事故など外的な要因以外で発生するものを自然渋滞とよぶ。自然渋滞の発生原因にもさまざまなものがある。カーブ、坂道などの速度変化によるものである。その中で、速度差からの車間距離の変化からの渋滞も考えられる。

セルオートマトンモデルを使い、速度、車間距離を導入したシミュレーションを行い、実際のものと比較する。比較から、その共通または違いを考察する。